

(熊本県立球磨工業高等) 学校 平成30年度学校評価表

1 学校教育目標	
<p>1 ものづくりをとおした人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりをとおして人格を磨く ・ものづくりに関する資格取得の推進 ・次世代の産業界を担う人材の育成（基礎学力・基礎技術の向上） <p>2 部活動をとおした人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心身健康で明るく活気ある学校雰囲気の醸成 ・逞しくチャレンジ精神を持った生徒の育成 ・主体的に行動できる生徒の育成 <p>3 地域から信頼される人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の徹底（5S活動の充実）* 5S：整理・整頓・清掃・清潔・躰 ・地域貢献への積極的な参加 ・自尊感情と球磨工生としてのプライドの育成 	

2 本年度の重点目標	
<p>1 希望進路の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な進路開拓による求人数増 ・全職員による面接指導の充実 <p>2 少子化、多様化への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した学校の特色づくり ・中学校への広報活動の充実 ・小中学生へものづくりの魅力発信 <p>3 工業教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全教育の徹底（事故原因を元にし予測指導） ・学科の専門領域の深化と特色づくり ・資格取得の奨励 （ジュニアマイスター取得への挑戦） ・職員の専門性向上と熟練技能の伝承 	<p>4 学校評価の充実と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価とその検証 <p>5 人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OJTの充実 ・職員研修の充実 <p>6 教育課題への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止と人権教育の充実 ・特別支援教育の充実 ・教育相談の充実 ・エコスクール活動の推進 <p>7 職員の健康管理と不祥事防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい職場環境づくり

3 自己評価総括表							
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題	
大項目	小項目						
学校経営	本年度の重点目標の周知	<ul style="list-style-type: none"> 育友会活動、学校ホームページ（HP）や球磨工メール、学年及び学級通信等の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートにより、重点目標を知っている保護者の割合を85%以上とする。 HPや球磨工メールを積極的に活用し、保護者へ学校行事、部活動等を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> HPの積極的な更新 HP、育友会新聞等の内容を更に充実 育友会新聞を学期に1回発行 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの結果は83%が知っていると回答した。 HPは3月1日現在において1日あたり平均700件以上のアクセスがある。球磨工メールでの試合結果等の配信と併せて学校での生徒の様子等の周知ができています。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 地域行事等への積極的な参加 	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事等へ積極的に参加、工業各科の生徒作品展等を行う。 生徒のはつらつとした姿おとして、本校教育の充実度を実感してもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域産業フェア等への積極的な参加 学校、同窓会、育友会の連携を密にし、地域に貢献する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事への積極的な参加により、生徒の成長の様子を周知できた。 生徒においても自身の取組を通して、成長と自己肯定感を実感することができた。 	
	地域連携の強化及び地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 育友会総会等の保護者の参加率50%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加率向上のための意見集約 HP等による学校行事等の情報提供 	C	<ul style="list-style-type: none"> HP、球磨工メールで周知したが、総会参加者191人、出席率35.2%であった。 開催時期等の検討を進めたい。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 業務改善意識の醸成 職員間の仕事上の連携 	<ul style="list-style-type: none"> 職員アンケートによる計画的な校務の工夫と超過勤務削減への取組についてできているを65%以上、職場へ向かうことが楽しいが75%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務の改善意見集約とやり甲斐のある職場環境づくり 科会及び部会、委員会等で、職員の帰属意識の向上 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員アンケート結果は業務改善を意識して、校務に取り組んでいるが81%、学校に行くのが楽しいが68%となった。 業務改善の意識は概ね定着してきつつあるが、実効性のある改善に取り組む必要がある。 	
	組織の運用と学校活性化	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動参加生徒を昨年同様90%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎の活動報告書の作成と広報 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の部活動加入数は、のべ547人で97%である。また、野球部はNHK旗野球大会優勝。陸上競技部、カヌー部、弓道部等も好成績を残しており、部活動をととした人づくりの効果が上がっている。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 入学希望者定員確保への更なる取組 	<ul style="list-style-type: none"> 職員による中学校訪問や説明会参加を3回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月学校説明会 8月体験入学 9月学校行事等案内 11月進路状況報告 	C	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動や説明会を工夫しながら実施してきたが、前期（特色）選抜144人、後期（一般）選抜66人の出願であり、定員確保につなげることができなかった。 	
	学力向上	授業の充実指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学びながら、資質や能力を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートにおいて、授業で資質や能力が身についたと感じる生徒が80%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 科目ごとに授業で学ぶ上で必要となる資質や能力を明示し、生徒自身が資質や能力が身につけているかどうか判断できるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 技能について80%以上の生徒が身についたと実感できていた。 思考力、判断力、知識、理解については65%程度であった。表現力は50%程度にとどまり、これらの力が実感できる授業づくりが求められている。
			<ul style="list-style-type: none"> 授業改善プロジェクトの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 職員に授業アンケートを行い、改善できたと答える割合が70%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で資質や能力を身につけさせる取り組みを検討し、全職員で情報を共有する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートにより、授業改善の方向性について全職員で共通認識が取れた。今後は、職員自身が改善の実感を得られる取組につなげたい。
			<ul style="list-style-type: none"> 職員間で助言し合う場面の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業の参加率を70%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 1・2学期に2回ずつと保護者向け公開授業を1回の計画をする。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業を計画的に実施できた。保護者からは好評であったが、職員の参加率が30%程度と低く課題が残った。

自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標の設定 人生観、社会性の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな人間性の育成と主体的な進路選択ができる能力を養う。 卒業後の人生設計を考えさせ、人生観、社会性を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員による進路指導の徹底 就職適性検査や外部模試の結果の活用 職員研修による職員の資質の向上 外部講師等によるガイダンスの実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から授業やHRをとおして指導をしているが、特にインターンシップでは全職員が担当し指導している。 2社から社長様を2人招聘し、インターンシップの事前指導を行った。また9社から担当者20人程を招聘し、ハローワークとの連携で管内企業説明会を行った。地元産業や生活について生徒と保護者が丁寧な説明を受けた。
	目標進路の達成	<ul style="list-style-type: none"> 就職、進学指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 1次内定率95%達成 進路決定率100%達成 公務員志望未決定者0人 	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスの充実 進路課外の充実 進路対策指導の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1次内定率は93.2%だったが、9割を超えること自体が難しいことであり、全体としては大変好調だった。 2人が未定。特別支援担当との早期からの連携が必要。 公務員は全員が進路決定。5年ぶりに人吉市役所への合格者も出た。
	県内就職の促進	<ul style="list-style-type: none"> 県内就職を目指す生徒数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 就職希望者における県内就職内定者17% インターンシップにおける管外事業所の新規受入事業所の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 熊本しごとコーディネーターとの連携強化 管内事業所説明会の拡充 県内事業所を知る機会の提供（広報活動の充実） 	B	<ul style="list-style-type: none"> 県内就職16.8%と僅かに及ばなかったが、県外企業の勢いが強い中、健闘できた。 管外インターンシップや工場見学をとおして管外企業への生徒・保護者の理解が深まり、企業側の本校への期待が高まった一方で、保護者の参加数が昨年度より伸びず周知方法や日程に課題が残った。
生徒指導	健全な人間育成	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 礼儀、礼節の徹底 交通ルール、マナーの遵守 校内美化に対する自発的態度の育成 生徒会活動の活発化 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの評価項目（職員や保護者役員の満足度）80%以上を目指す。 アンケートによる職員や保護者の評価項目の基準値を75%とし、基準値以上とする。 学期に1回、各種委員会等で話し合いの場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校指導、頭髪服装指導、自転車点検、集会での啓発、列車補導、日常の指導 生徒指導部による適切な掃除計画、ごみ分別の指導、5Sの教室掲示 美化コンクールの実施 委員会活動の活発化、行事の円滑な運営、達成感のある生徒総会の開催 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートでは、本校の生徒指導の方針について、生徒も保護者も80%以上の満足度を示した。 適切な掃除計画と定期的な美化コンテスト実施により、校内の環境美化が徹底された。 生徒会活動については昨年度までと比較して活発化はできなかったが、年間通して計画的に活動できた。
	職員間で連携協力できる指導体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 職員の共通理解と生徒指導体制の充実 問題行動への適切な対応・指導 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの評価項目での、職員や保護者の客観的評価を80%とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導方針の周知、職員間の連携協力の強化、相談しやすい職場づくり 若手職員への支援、育成 職員研修の実施 正確な事実確認、事案発生の原因、背景の究明、事後指導を含めた適切な対応 	B	<ul style="list-style-type: none"> 指導方針を共有することは心掛けてきたが、全職員での共有が難しかった。生徒指導業務が一部の職員に偏っていると感じることが多かった。 未然防止という点で課題が残った。発覚した問題行動に対しては適切な指導を行った。
	安全安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 情報安全・情報モラル教育の推進 防犯教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭におけるインターネット等利用に関するルールづくりや、生徒会が提案した「携帯電話やインターネット、SNSを使う際のルール」を推進する。 生徒・保護者の防犯意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と連携を深め、啓発活動を推進する。 情報モラル講演会を実施するなど啓発活動を実施する。 警察署と連携を深め、地域の防犯に関する情報発信を行う。 防犯に関するLHRを計画実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 講演会等を実施して生徒に危機感を持たせることはできたが、実生活に即した指導という点では課題が残った。 SNS等を利用した問題行動が起こった。 警察との連携もあり重大事案は起こらなかったが、喫煙や飲酒等の非行が頻発した。

自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
人権教育の推進	職員への啓発活動の強化	・「同和」問題への理解を深める取組	・部落差別の現状やこれまでの国や県の解消に向けた取組等の歴史に関する正しい理解	・分かりやすい自主教材作成 ・校外の研修会への参加促進	B	・同和問題の課題を先生方と学び、人権感覚の向上に努めた。 ・多くの先生方が研修会等に参加し、啓発活動を行った。
		・水俣病問題をはじめ様々な人権問題に対する啓発活動	・相手の立場に立って物事を考えられる生徒の「想像力」の育成	・月1回程度の「人権教育だより」の発行 ・人権教育推進委員会の活性化と職員研修の充実	C	・定期的に入権教育だよりを発行することができなかった。 ・定期的に入権教育推進委員会を開催し、連携することができた。
	学校生活全般における「命を大切にす心」を育む指導	・よりよい人間関係を構築するための活動	・昨年度から引き続きアサーションへの理解と取組を図る。	・授業創造の実践や職員研修で、指導力向上を図る。 ・生徒の日常の中に潜む課題を把握し将来のビジョンを見据えたキャリア教育につなげる。	B	・人権教育の視点を取り入れた授業創造について、先生方と課題を共有し、取り組むことができた。 ・学年主任・担当職員と連携を密にとり、生徒の実態に合わせた人権LHRを実施できた。
		・「命の大切さ」を学ぶ取組	・自他の生命を大切にして、お互いに理解し合う集団づくりを実践する。	・生徒会等と協力し、人権標語やポスター作成を行う。 ・人権教育に根ざした授業づくり	B	・人権標語や子ども人権作品に応募して入賞した。 ・人権教育の視点を取り入れた授業を実施することで生徒の自己肯定感を高めることができた。
いじめの防止等	いじめの未然防止	・いじめの未然防止の取組	・情報モラルに関する指導の徹底。 ・命を大切にす心の育成を図る啓発活動の実施。	・情報モラルに関する講演会や研修会を実施するなど啓発活動に取り組む。 ・各教科の協力や、生徒・美術部等による呼びかけ、放送委員による校内放送等で啓発する。	B	・SNS等を利用した問題行動が起こった。学校全体を通して引き続き指導が必要である。 ・いじめ防止の標語やポスターの作成等を各教科で取り組み、意識付けになった。
	いじめの早期発見と解消	・いじめの早期発見の取組	・いじめの兆候を見逃さない徹底した調査の実施	・職員による生徒の変化及び状況把握 ・心のアンケートの実施 ・面談や聞き取り調査 ・家庭訪問の実施 ・「Kids' Sign」の有効活用	B	・心のアンケートからいじめ事案を認知し、適切な対応を行うことができた。 ・「Kids' Sign」は、いじめに直結する事案はなかった。
		・いじめの解消の取組	・認知したいじめの完全解消を目指す。	・被害者、加害者、周囲の生徒に対する指導や対応を担任及び関係職員と連携して行う。 ・保護者に対して説明および指導協力の要請	B	・加害者、被害者共に継続的かつ計画的に指導したことで年度内に解消することができた。
いじめ防止対策委員会の機能強化	・いじめ防止等の取組の改善	・いじめ防止等の取組に関する評価とそれに基づいた改善の実施	・いじめ防止対策委員会の取組の計画、実施、評価、改善 ・いじめに対する積極的な認知 ・いじめ解消に向けた取組の評価、改善	B	・毎学期「いじめ防止対策委員会」を開催し、学校内の現状について議論し共有することができた。 ・いじめの認知についても積極的に議論し、適切な認知ができた。	
地域連携（コミュニティスクールなど）	学校防災マニュアルの活用	・学校独自の防災マニュアルの活用	・学期に1回の学校運営協議会を開催。	・学期に1回、学校運営協議会を開き、問題点等の改善を行なう。	B	・学期に1回の学校運営協議会を開き、問題点を協議し、改善につなげることができた。（避難時の動線の矢印製作等）
	防災型コミュニティスクール構築及び教職員の動員体制の構築	・学校運営協議会の発足 ・職員の動員体制と役割	・保護者や地域・自治体との連携体制の確立 ・学校側の受入れ態勢として、職員の動員体制及び役割の確立	・9月中旬に、実施される予定である人吉市総合防災訓練への取組を通し体制整備を行う。	B	・9月23日に行われた人吉市総合防災訓練においては、職員、生徒54名が参加し、真剣に訓練を体験することができた。課題としては、いつ災害が発生しても職員が対応できるように体制と役割の周知を充実させることである。

自己評価総括表							
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題	
大項目	小項目						
特別支援教育	困り感のある生徒に対する支援の充実	・困り感のある生徒に対して組織全体として支援を行っていく。	・学校生活において困り感のある生徒の実態を把握し、必要な支援を行う。	・高校入学時のアンケートや生徒情報交換会を通して、困り感のある生徒を把握する。SCや外部機関も積極的に活用し、支援を検討する。	B	・新入生についての中学校からの情報の引き継ぎ、また、2、3年生について、学校生活に対する困り感の情報、学校全体から情報が集まってくるような流れを作れた。 ・ケース会議についての認識は深まったが、その内容や頻度などについては改善の余地がある。	
				・ケース会議などを持ち組織的、計画的支援を行う。			・職員研修を定期的に行い、日頃の取組みをよりよいものにする。
工業教育の推進	ものづくりNo. 1への挑戦	・ものづくりコンテスト等各種競技大会への取組	・ものづくりコンテスト県大会6部門（機械加工・溶接・電気工事・木材加工・家具工芸・測量）での入賞（昨年度3部門金賞） ・若年者ものづくり競技大会、他競技会での入賞	・工業各科の枠を越えた協働体制の強化 ・指導体制や方法を改善	B	・金賞を逃したが、全ての部門で入賞を果たすことができた。 ・指導力の強化、代表生徒の意識の高揚を図る必要がある。 ・若年者競技大会においては大健闘した。	
		・ロボット大会への取組	・県大会及び全国大会優勝	・部活動と課題研究班との相互の技術交流 ・指導体制や方法を改善		B	・全国大会では不調に終わったが、県大会では入賞を果たした。指導者及び生徒の技術力向上やロボット製作に伴うノウハウを養う必要がある。
		・マイコンラリーへの取組	・九州大会及び全国大会出場	・部活動と課題研究班との相互の技術交流 ・指導体制や方法を改善		C	・部活動生製作による1台のみが九州大会出場を果たした。課題研究班は不調であった。指導の在り方に課題が残る。
	ジュニアマイスター認定者及び技能士の育成	・技能士・各種資格検定に対する積極的な指導	・技能士200人以上 ・ジュニアマイスター100人以上	・授業及び課外等の積極的活用 ・指導体制や方法を改善	A	・230名の技能士、218名のジュニアマイスターの承認を受ける予定。 ・継続して指導を続ける。	

<p>4 学校関係者評価</p> <p>1 評価された点</p> <p>(1) 本校の重点目標や取組の方向性、今年度の取組状況や自己評価、学校評価アンケート等の結果を受けて、概ね高評価をいただいた。</p> <p>(2) 就職・進学・公務員における進路決定状況もほぼ100%、充実した進路指導ができており、地域企業への理解促進事業への取組など地元企業への就職も意識した取組ができており、日頃の生徒指導及び進路指導の職員の努力の表れであるとの評価を得た。</p> <p>(3) 部活動の活躍やおくんち祭り、地域の行事への参加やボランティア活動などの地域貢献活動への積極的な参加について、高評価をいただいた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 平成31年度（2019年度）募集で定員を満たさなかったことについて 平成30年度（2018年度）入試では募集定員を確保できたが、平成31年度（2019年度）入試では、募集定員を確保することができなかつた。学校のPRを工夫しながら取り組んでいるが浸透していないのではないかなのか、地域貢献も盛んで期待されているところでもあるので更なるPRへの工夫が必要ではないか。</p> <p>(2) 職員の負担感軽減について 職員アンケートから「校務分掌は全体的にバランスを考えたものになっている。」について50%が当てはまらなかつたと考えている職員がいる。職員の仕事のバランスを考えるとともに面談等とおして職員の健康へのケアにも配慮してほしい。</p> <p>(3) スマートフォン・携帯電話等の利用について 多数の生徒が所持しているかと思うが、一般論としてSNSにおける不適切動画等が問題になっており、本校でも指導をお願いしたい。また、家庭でのスマートフォンの使い方と合わせて指導をお願いしたい。</p>

5 総合評価

(1) 本年度の学校教育目標について

一貫して、「ものづくりをとおした人づくり」「部活動をとおした人づくり」「地域から信頼される人づくり」を教育目標に掲げている。今年度は、部活動での実績、ものづくりを生かした地域貢献等により、生徒たちにも本校生としての自覚が生まれ、自己肯定感にもつながり、落ち着いた学校生活を送れているものと感じる。また、本校の活躍について地域の方々から評価していただいております。教育の原点とも言える「人づくり」が種々の取組により実践され、目標を十分に到達していると言える。

(2) 本年度の重点目標について

希望進路の実現、少子化・多様化への対応、工業教育の充実、学校評価の充実と活用、人材育成、教育課題への対応、職員の健康管理と不祥事防止などの重点目標については、概ね目標達成している。

本校には、若手職員が多く、教科指導・生徒指導、保護者への対応等でときには未熟な面も見られるが、実践経験を通して教職員としてのスキルアップを今後も継続して図っていききたい。また、勤務時間や校務負担など、偏りが見られる部分もあるので、全体的にバランスよく効率的になるよう業務内容の見直しや精選を進めながら、全職員が意欲的に校務を行える学校運営をしていく必要がある。

(3) 自己評価総括表について

工業教育の充実では、実習教師2名が年間を通して充足しなかったことに加え、指導者の変更等や、指導の引継ぎなどが十分ではなかった部分もあるが、技能士とジュニアマイスターの育成では、過去最高の成果を残せた。

ものづくりをとおした地域貢献は、地域の期待にも十分に添っており、生徒の高校生活の充実にもつながっている。

キャリア教育では県の新規事業を活用し、各企業様からの協力を得ながら管外でのインターンシップを実施し、貴重な体験の機会を生徒に提供することができた。

また、募集定員の確保、多様な生徒への対応など、課題となる点もあるので、学校全体の取組として共通理解を図り、教育活動の充実に向けた実践につなげていきたい。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 募集定員の確保に向けた取組

平成30年度(2018年度)入試では募集定員を確保できたが、平成31年度(2019年度)入試では、募集定員を確保することができなかった。工業教育の取組や「ものづくり」をとおした地域貢献は充実しているが、本校の良さをさらにPRしていく工夫が必要であると感じる。

募集定員を満たせなかった要因を分析するとともに、本校生の高校生活での成長の様子を中学生や保護者、中学校職員へ伝え、本校の良さを実感できるような取組になるよう更なる充実を図りたい。

(2) 学力向上と授業改善への取組

多様な生徒が入学するなか、生徒の学力向上をにつなげるには、生徒の意欲を引き出し、能動的に授業に参加する姿勢を生み出すことが重要である。そのためには、職員の授業力向上が求められる。同時に、授業のUD化も同時に進めなければならない。生徒の実態に応じた授業展開の工夫及び改善など、職員の授業改善の実践につながる取組を進めていく。

(3) 業務改善への取組

長時間勤務する職員がいること、多くの職員が業務負担のアンバランスを感じている実態を踏まえ、ワーク・ライフ・バランスの充実、業務の精選、計画的かつ効率的な業務の進め方など多角的な視点から進める必要がある。

改善は、「生徒と向き合う時間の確保」を念頭に置き、業務改善や負担感軽減を実践していくことが必要になってくる。職員の意識改革につなげ実効性のある業務改善の取組を進めたい。